



つながる学びの架け橋 幼保小連携の力

富田幼稚園
園長 星 峰夫

幼保小連携の重要性が取り上げられるようになって久しく時間が流れています。大切なつながりであることは理解されているものの、常に幼保小の課題として上げられてしまうことに少々歯がゆさを感じてしまいます。

そこで、皆さんもご存じのこととは思いますが、改めてこれまでの幼保小連携の課題解決に向けた経緯や現在の状況を確認しつつ、幼保小連携の重要性を考えてみたいと思います。

◇ 幼保小連携の流れ 「小1プロブレムから架け橋プログラムへ」

(1) «出発点は小1プロブレム» 1990年代後半

「小1プロブレム」（小学校入学直後に授業が成立しにくい問題）が顕著化。これを背景に、幼稚園・保育所と小学校の連携の必要性が強調され始めた。

(2) «制度化に向けて 教育要領・法改正» 2000年代前半

- 平成10年（1998年）改訂の小学校学習指導要領に「他校種との連携の必要性」が記載される。
- 平成19年（2007年）の学校教育法改正で、幼稚園教育が小学校以降の基礎として位置づけられる。
- 平成20年（2008年）の幼稚園教育要領・保育所保育指針改訂で、幼保小接続に関する相互留意が明記される。

(3) «発展的取り組み 10の姿の導入» 2010年代後半

平成29年（2017年）の教育要領改訂で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」が示され、幼保小連携の方向性が制度的に明確化される。

(4) «現在 架け橋プログラムの実践» 2020年代

文科省が「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を設置（2021年）、翌年から「幼保小の架け橋プログラム」が全国で試行開始される。

このように、幼保小連携の取り組みは「小1プロブレムの解消」から「子どもの育ちの連續性確保」へと進化するとともに、自治体ごとの柔軟な取り組みが広がり、共通カリキュラム・交流活動・研修体制が整備されつつあります。要するに、現在は、幼保小連携の目的の広がりとそのための制度設計が整ってきた段階にあるといえます。

保護者アンケートから読み解く
課題と解決のヒント

さて、次の一手は…



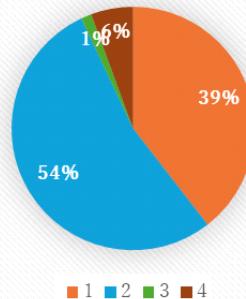
では、ここにどんな手を加えれば課題の解決に繋がるのでしょうか。そのヒントの一つとして、本園を卒園した子どもたちの保護者向けに行ったアンケート調査の結果をご紹介します。

【子どもの教育の小学校連携に関する保護者アンケート】

《小学校1年生の保護者対象 回答者71名》 2024.6.25実施

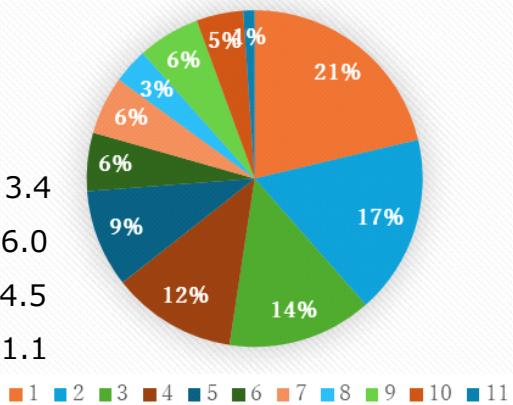
① 幼稚園での幼保小連携の取り組みは、お子さんの入学後の学校生活に役立っていますか。

- | | |
|-------------|-------|
| ①大いに役立っている | 39.5% |
| ②役立っている | 53.5 |
| ③あまり役立っていない | 1.4 |
| ④よく分からない | 5.6 |



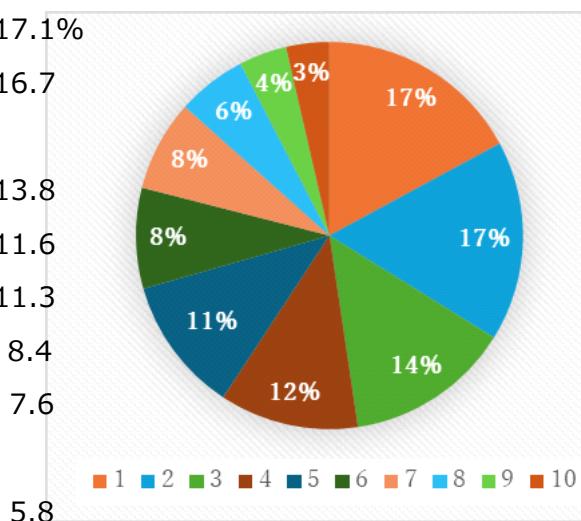
② お子さんの小学校入学にあたって楽しみにしていたことや期待していたことは何ですか。

- | | |
|-----------|-------|
| ①友達 | 21.3% |
| ②勉強 | 17.2 |
| ③給食 | 13.9 |
| ④学校行事 | 12.0 |
| ⑤運動 | 9.4 |
| ⑥先生（担任） | 5.6 |
| ⑦休み時間 | 5.6 |
| ⑧当番活動 | 3.4 |
| ⑨上級生との交流 | 6.0 |
| ⑩学校の施設・設備 | 4.5 |
| ⑪特になし | 1.1 |



③ 振り返ってみて入学前に取り組んでおきたいこと、取り組んでほしいことは何ですか。

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ①基本的な生活習慣を身に付ける | 17.1% |
| ②友達と仲良くするなど思いやりの心を育てる | 16.7 |
| ③言葉を通して先生や友達と心を通わせたり、人前で発表したりする | 13.8 |
| ④決まりを守る大切さを身に付ける | 11.6 |
| ⑤文字や数に興味を持たせる | 11.3 |
| ⑥集中して一つのことに取り組む | 8.4 |
| ⑦遊びや運動などにより体力・健康づくりをする | 7.6 |
| ⑧小学校以降の育ちの連続性を意識した教育活動を行う | 5.8 |
| ⑨友達と一緒に同じ目的をもって一つのこと取り組む | 4.0 |
| ⑩絵や工作、歌や器楽等による創作的な活動に取り組む | 3.6 |



アンケート①の結果から、本園で行っている幼保小連携の取り組みについては、ほとんどの保護者が小学校生活に役立っていると回答しています(全体の93%)。つまり、保護者の方々も幼保小連携の重要性を大いに感じており、取り組みを継続的に行うことによって、我が子が安心して学校生活を送ることができると捉えているのです。

特に、小学校入学で楽しみにしている①友達ができること、②新たに始まる教科学習、③配膳から会食まで含めた給食、④様々な学校行事、⑤体育や休み時間・放課後などに行われる運動といったことに関しては(アンケート②)、その期待が大きい反面、上手くいかずに小1プロブレムを引き起こす不安要素にもなりかねません。このようなマイナス面に陥らせずに子どもや保護者の背中をポンと後押しするものこそが幼保小連携の取り組みであると考えます。

また、幼児期の段階で育ってほしい子どもの姿については、アンケート③の結果に表れています。

- ① 基本的な生活習慣を身に付ける。
- ② 友達と仲良くするなど、思いやりの心を育てる。
- ③ 言葉を通して先生や友達と心を通わせたり、人前で発表したりする。
- ④ 決まりを守る大切さを身に付ける。
- ⑤ 文字や数に興味を持たせる。 * 以下省略

これらの姿とは、正に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」であり、取りも直さず、私たちが日々の保育の中で取り組んでいる内容なのです。10の姿は、前述したように幼保小連携の方向性を示したものであり、小学校へのスムーズな接続を目指すうえで欠かせないものです。幼児期の終わりまでに子どもたちを10の姿に近づけることは、幼保小連携への大きな役割を果たしていると考えます。

さらに、10の姿を育むにあたって、近隣の小学校では教科指導や生活指導においてどのように重点を置いて取り組んでいるかを共有できれば、それらを10の姿の中に意識的に取り込むことで、より効果的な保育を展開できるものと考えます。この点については、今後進められていく「架け橋プログラム」の実践にも大いに期待したいところです。



これまで主に幼稚園・保育所と小学校とのつながりについて述べてきましたが、幼保小連携をさらに実効性のあるものにするために欠かせないものがあります。それは、日々お子さんと向き合い、子育てに奮闘されている保護者の皆さんです。先述した幼児期の段階で育ってほしい子どもの姿などは、各ご家庭でも取り組んでいらっしゃる、或いは取り組むことが可能な内容です。お子さんのちょっと先の未来が明るく充実したものとなるよう、ご家庭の味を出しながらお子さんと向き合っていただけだと嬉しいです。

最後に、幼保小連携の力には、まだまだたくさんの方があると思いますが、これからは、幼保小連携を「課題」として捉えるのではなく、子どもや保護者、指導者をつなぐ「力」と捉え直して、子育てに生かしていくべきだと思ふところです。